

令和4年度 障がい者総合サポートセンター取組状況

1 大田区精神障がいピアサポート講座の開催について

● 目的

- 精神障がいのある方だけでなく、支援者・家族等様々な属性の方がともに「ピアサポート」について学ぶことにより、理解啓発を図る。
- 参加者が、普段の役割を自然におり「対等な立場」で受講することで、その場を体感し自身のリカバリーやストレングスに気づき、可能性や希望を獲得してもらう。

日時	令和4年10月14日(金)28日(金)、11月4日(金) 13:15~16:45
場所	大田文化の森
参加者	21名
周知先	地域福祉課、地域健康課、障害福祉課、特別出張所、地域活動支援センター、就労継続支援B型事業所、地域包括支援センター、図書館、区民センター、文化センター、区内精神科のある病院、クリニック等
講師 ファシリテーター	聖学院大学 心理福祉学部 心理福祉学科 教授 相川章子氏 理~さん、愛さん
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● ピアサポートの核となる「経験の語り(リカバリーストーリー)」を、中心として全体共有し、リカバリーとピアサポートについて学ぶ。 ● 安心して講座に参加いただくために <ol style="list-style-type: none"> ① 安心・安全・居心地のいい場、② 「ここで、今」・味わい尽くす ③ 多様な人々の参加、④ 日頃の役割や立場は脇に置く ⑤ 感謝の気持ちを存分に伝える、以上5点を大切にす。 ● 居心地のいい場づくりのためのルールとして、最低限のルールをみんなを出し合い決めて進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ● 1日目：リカバリーストーリーを聴き、共有する。ピアサポートの前提となる「リカバリー」やリカバリーとピアサポートの関係について学んだ。 ● 2日目：コミュニケーション技法やバウンダリーとセルフケアを学び、後半、リカバリーの体験談を「語り手・聴き手・観察者」に分かれ演習した。 ● 3日目：ピアサポートを支える理論の1つである「ストレングス」について学び、全員で円になって座り「ピアサポート体験談」をリレートーク形式で共有した。これまでを踏まえ、「私にもできる！身近なピアサポート」と題して、グループワークを行い、あるといいこと、今できることを話し合った。

アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> ● ピアサポートの理解が深まった。 ● がんばればできると希望を持てた。 ● 利用者を、他の方や環境につなぐことができ良かった。 ● リカバリーを結果でなく過程とするなど、自分では気づけない発見ができた。また参加したい。 ● 講師やファシリの話が分かりやすく、温かく包みこんでくださる感覚で安心して参加できた。 ● 自分のピアサポート体験発表、こんな利用サービスがあればなどの話し合い、同じ障がいや経験、悩みがあるからこそ実現できればと思うものばかりだった。 ● 当事者、家族、支援者など様々な立場の方が話合うのをみて、この講座は様々な人の思いを知る場所であり、一緒に学び、語り合う機会はとても貴重だった。 ● 様々な人の辛さを軽くできるイベントだったのだなと思った。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ● ピアサポートの普及・理解啓発のため引き続き講座を実施する。 ● 講座参加者を中心に、ピアサポート講座実行委員会の立上を検討する。

2 各所情報収集・連携について

東京都地域移行コーディネーター、中部総合精神保健福祉センターと連携し、地域移行の促進また地域づくりのため情報収集・検討を行った。

(1) 相談支援事業所連絡会おおた

テーマ「地域移行支援・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて」

毎月1回、大田区内では相談支援専門員が集まり連絡会を開いている。

今回は、東京都地域移行コーディネーターを招き、区内支援者より地域移行支援の事例

1) 知的障がいのある方の施設から地域へ移行支援事例

2) 精神障がいのある方の病院から地域へ移行支援事例

を発表いただき、地域移行支援について検討するグループワークを行った。

また総評の中で、東京都地域移行支援コーディネーターより、地域移行に関する意識確認の意味を含め、啓発的に「地域移行支援について1歩踏み出してアタックしてみないか」とお話いただいた。

(2) 医療法人社団 鶯の木会 南晴病院訪問

ご入院されている方の地域移行（退院促進）に向け、情報交換を行った。

3 地域移行・地域定着研修について

東京都地域移行コーディネーターに講師を依頼する予定。

時期：2～3月頃開催予定。

テーマ：「退院（病院からでる／地域に出る）について（案）」

障害者権利条約の勧告と、強制入院について指摘されていることを踏まえ、

地域で暮らすことをベースに受講生が主体的かつ具体的に考えられる研修を企画する予定。